

俳人協会茨城県支部 総会・俳句大会

当日句

# 俳句大会作品集

日時	令和五年四月二十一日
場所	水戸市・茨城県県立青少年会館
講師	權未知子先生 俳人協会理事
主催	『群青』共同代表 俳人協会茨城県支部

入賞作品（二十句）

一七	① 立ち眠る馬の睫毛や風光る	北郷 三雄
二七	① 手の平に五種の錠剤春寒し	小川みのる
四六	① 終バスの過ぎし集落遠蛙	飛田 伸夫
八五	① 囀りや伝言板にある続き	小貫 清美
七八	② レプリカの埴輪の馬へ黄砂降る	須藤 智子
四三	① 春泥をとべば根付の鈴が鳴る	永山 憲子
六六	若葉風入れて移築の旧校舎	栃木絵津子
一一	① アルバムの歳月重し春埃	和田ゑみこ
二四	① 晩学の肩にふはりと春シヨール	大島 良子
五七	① 薫風や未来を担ふランドセル	飛田キミ子
六四	① 茎立や余生とてあるこころざし	大島 良子

八七	① 囀りや旅の鞆に電子辞書	笹川 昌子
二七	① 耕すや老いの息災ありがたく	坪 文雄
三五	① 花冷や両手でつつむ汁粉椀	須藤 智子
四六	① 新聞少年師の黙認の目借り時	坂場 俊仁
二二	① 水戸学の尽きぬ流れや青き踏む	道口 育子
五二	① 手のとどきさうなる夕星夏近し	永井 弘子
四九	① 厚切りのバタートースト燕来る	笹川 昌子
八八	① 山笑ふ空飛ぶ車試運転	阿見 理子
三四	② 水音の響ききびきび夏近し	小泉 光子

特 選

- 二四 5 ① 晩学の肩にふはりと春シヨール 大島 良子  
 三四 3 ② 水音の響ききびきび夏近し 小泉 光子  
 五二 4 ① 手のとどきさうなる夕星夏近し 永井 弘子

佳 作

- 五 1 花水木濡れし街路の黄昏れる 藤本 明美  
 一一 5 ① アルバムの歳月重し春埃 和田ゑみこ  
 一七 11 ① 立ち眠る馬の睫毛や風光る 北郷 三雄  
 二〇 2 用水の恵み待つ田や蘆芽ぐむ 由木 まり  
 二二 4 ① 水戸学の尽きぬ流れや青き踏む 道口 育子  
 四〇 3 深眠る藍甕の藍囀れり 小木津閨子  
 四三 6 ① 春泥をとべば根付の鈴が鳴る 永山 憲子  
 四九 4 厚切りのバタートースト燕来る 笹川 昌子  
 五四 3 新妻の腕逞しや柏餅 益子 勝江  
 六一 3 たかんなにありて根性らしきもの 小川みのる  
 六四 5 ① 茎立や余生とてあるころざし 大島 良子  
 七九 1 つかのまや一人静の花の時 沼 和子  
 八四 8 手の平に五種の錠剤春寒し 小川みのる  
 八五 7 ① 囀りや伝言板にある続き 小貫 清美  
 八七 5 ① 囀りや旅の鞆に電子辞書 笹川 昌子

特 選

- 一 1 ① 転生を信じ仰ぐや星臙 井川 水衛  
 四三 6 ① 春泥をとべば根付の鈴が鳴る 永山 憲子  
 七八 6 ② レプリカの埴輪の馬へ黄砂降る 須藤 智子

佳 作

- 四 3 囀をかき消すやうに救急車 柏 俊子  
 二一 2 水戸つぼの気風は今も木瓜の花 阿見 理子  
 二四 5 ① 晩学の肩にふはりと春シヨール 大島 良子  
 三五 5 花冷や両手でつつむ汁粉椀 須藤 智子  
 三九 2 百段を登り桜の閻間堂 築 岳遊  
 四九 4 厚切りのバタートースト燕来る 笹川 昌子  
 五三 1 頬杖の視界をよぎる春の猫 和田ゑみこ  
 五六 1 春障子衣擦れの人たもとほる 幡谷 哲子  
 五七 5 ① 薫風や未来を担ふランドセル 飛田キミ子  
 八二 1 早苗田や水戸までの道風清し 山上ふみ子  
 八三 1 山桜鄙のはなしをねんごろに 天下井誠史  
 八四 8 手の平に五種の錠剤春寒し 小川みのる  
 八五 7 ① 囀りや伝言板にある続き 小貫 清美  
 八八 4 山笑ふ空飛ぶ車試運転 阿見 理子  
 九四 1 歴史館の園地にほはと花銀杏 関口恵美子

俳人協会・茨城県支部 副支部長 笹川 昌子 選

特選

三四 ② 水音の響ききびきび夏近し

小泉 光子

五五 ① 花冷えの木の椅子に置く吉野寿司

平野 悦子

七八 ② レプリカの埴輪の馬へ黄砂降る

須藤 智子

佳作

一五 ① 切腹に作法ありけり花吹雪

若杉 千秋

一七 ① 立ち眠る馬の睫毛や風光る

北郷 三雄

二四 ① 晩学の肩にふはりと春シヨール

大竹多可志

二六 ① 水車小屋の水車動かず春惜しむ

大島 良子

二七 ⑤ 耕すや老いの息災ありがたく

須藤 智子

三五 ⑤ 花冷や両手でつつむ汁粉椀

飛田 伸夫

四六 ⑦ ① 終バスの過ぎし集落遠蛙

永井 弘子

五二 ④ ① 手のとどきさうなる夕星夏近し

杉山 昭風

五九 ② 一望の田水煌く初燕

杉山 昭風

六六 ⑥ 若葉風入れて移築の旧校舎

杉山 昭風

六八 ① 鳥帰る誰の空でもない空を

杉山 昭風

七六 ② 銀杏若葉さやさや風の通り道

岡崎 桂子

八八 ④ 山笑ふ空飛ぶ車試運転

阿見 理子

九〇 ③ 玫瑰や灯台白く背伸びせり

富田 文博

俳人協会・茨城県支部 副支部長 天下井誠史 選

特選

二二 ④ ① 水戸学の尽きぬ流れや青き踏む

道口 育子

六四 ⑤ ① 茎立や余生とてあるころざし

大島 良子

七四 ② ① 掌に花粉を残し牡丹散る

松井 節子

佳作

三 ② 鳥帰る底の見えたる一升瓶

小木津閨子

一〇 ① 菜園をシャベル一つで耕しぬ

飛田 伸夫

一二 ① のどけしや光る笑顔に真白き齒

永井 弘子

一七 ① ① 立ち眠る馬の睫毛や風光る

北郷 三雄

二一 ② 水戸つぼの気風は今も木瓜の花

阿見 理子

二七 ⑤ 耕すや老いの息災ありがたく

阿見 理子

三一 ① 大和草ひそと耀歌の山の春

沼 和子

三二 ① 糠要らず今掘り立てし筍よ

松井 節子

四〇 ③ ① 深眠る藍麩の藍囀れり

小木津閨子

五一 ② 軽やかに生きるも一つ花水木

道口 育子

七〇 ② 子の未来地球の未来陽炎へる

由木まり

八五 ⑦ ① 囀りや伝言板にある続き

小貫 清美

九三 ② ① 俺の山と言ひつつ穂芽摘む男

富田 文博

九五 ① 石に這ふ運針のごとなめくじら

富田由加子

俳人協会茨城県支部 役員特選句

六〇	山笑ふ空飛ぶ車如風	富田 文軒
八八	山笑ふ空飛ぶ車如風	富田 文軒
十六	難杏苔葉ちみちみ風の騒り直	岡田 豊千
六八	名普會員 鼎沸る小川みのるむい空さ	岡田 豊千
八五	7 ① 囀りや伝言板にある続き舎	小貫 清美
正六	局長 一室の飛田 鼎伸夫燕	井川 水衛
四五	2 ① 葱坊主とところどころに上級生	井川 水衛
四六	局次長 嶽ハ坂場 俊仁 慕慕	飛田 仲夫
一一	5 ① アルバムの歳月重じ春埃	和田 忍みこ
二二	局次長 襟さみ永山の意子ありはさく	和田 忍みこ
一七	11 ① 立ち眠る馬の睫毛や風光る	北郷 三雄
二四	幹事 御半の矢須 恵由 春々EーJ	大島 貞千
二六	2 ① 水車小屋の水車動かず春惜しむ	栃木 絵津子
一十	幹事 立さ廻岡崎の桂子 風光る	北郷 三雄
一四	2 ① 幣立てて水門開ける穀雨かな	飛田 キミ子
	幹事 鹿熊 登志	
六三	2 ② 散り際の桜は紅を尽しけり	北郷 三雄
十八	幹事 大山とし子 黒へ黄何刻る	北郷 三雄
六三	2 ② 散り際の桜は紅を尽しけり	北郷 三雄
正五	幹事 芥奈天 栃木 絵津子 吉理 表向	北郷 三雄
九三	2 ① 俺の山と言ひつつ穂芽摘む男	富田 文博
三四	監事 水音の 平野 悦子	富田 文博
八七	5 ① 囀りや旅の靴に電子辞書	笹川 昌子
	監事 和田 忍みこ	
四六	7 ① 終バスの過ぎし集落遠蛙	飛田 仲夫

六五	山笑ふ空飛ぶ車如風	富田 由風千
六三	山笑ふ空飛ぶ車如風	富田 文軒
八五	幹事 難杏苔葉ちみちみ風の騒り直	小貫 清美
六〇	4 ① 新聞少年師の黙認の目借り時	坂場 俊仁
五一	幹事 種々永井 弘子 一 芥木木	坂口 育千
五七	5 ① 薫風や未来を担ふランドセル	飛田 キミ子
三二	熱要るち令讀り立了了落も	北郷 三雄
三一	大味草ひさう 雲煙の山の春	北郷 三雄
二二	襟さみ永山の息災ありはさく	北郷 三雄
二一	水可く初め 度風お合木木瓜の芥	北郷 三雄
一十	立さ廻る 淵の御手 風光る	北郷 三雄
一〇	菜園さむハハハ 一 芥木木	北郷 三雄
三	鼎沸る 淵の 見天式 一代 飛	北郷 三雄
	封 芥	
十四	① 筆に芥 芥 芥 芥	北郷 三雄
六四	① 筆立の 余 主 了 了 了 了 了 了 了 了	北郷 三雄
二二	① 水可半の 羽 考 ぬ 飛 芥 の 青 考 韻 々	北郷 三雄

俳人協会・茨城県支部 隔支踏巻 天才共踏史 巻